



第五十八回 寄居北條まつり

令和元年
新たな時代へと
受け継がれる戦国ドラマ



天 正18年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めの際、鉢形城に陣取った郷土の武将北条氏邦は、5万人の豊臣軍を相手に、わずか3500人の兵力で二カ月余り攻防戦を繰り広げました。それから429年の時を経て、令和元年5月19日に開催された「第58回寄居北條まつり」。戦国絵巻の世界が寄居町によみがえりました。手作りの甲冑をまとった武者たちが市街地をパレードし、勝どきをあげる観客から大きな歓声があがるなど、会場は熱気に包まれました。

その後、場所を玉淀河原へと移し、北条軍と豊臣軍に分かれて繰り広げられた攻防戦は、まさに戦国の世さながらの迫力。講談師による両軍の掛け合いや、大将同士の一騎打ちが攻防戦をさらに盛り上げました。

また、北条ゆかりの地のグルメが集結した「北條食の陣」や舞台でのアトラクシオンも開催され、大勢の来場者でにぎわいました。
令和元年。新たな時代へと受け継がれていく北條まつりは、大盛況の内に幕を閉じました。



よみがえった戦国絵巻の世界を動画でもお楽しみください。